

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090200286		
法人名	有限会社 ケアサービス平和		
事業所名	グループホーム平和		
所在地	群馬県高崎市飯塚町1301-1		
自己評価作成日	平成22年8月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成22年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

多方面からの様々な助言をいただきながら、質の高いサービスを提供し、利用者の笑顔・家族の笑顔・職員の笑顔のあふれるグループホームを目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関が開放され、毎日入浴できる体制があり、排泄の誘導が適切である。ホーム内は不快な匂いがしない。これらは日常のケアに裏打ちされた結果である。戸外に出る機会があり、地域の人々や保育園児・中学校のやるベンチャー・ボランティア(フラダンス・アコーディオン・大正琴・ハンドベル)が来所している。開設1年目のホームであるが丁寧な支援と努力が感じられた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の中にある『私達はあなたの笑顔がみたいです』という言葉のように、一度でも多くの笑顔の見られるような支援を心掛けている。	理念は職員会議や月に1回のミーティング等で折に触れ意識するようにしている。	先代の思いを反映した理念なので、そこに地域密着型サービスの意義を盛り込んだ理念を作成してみたいか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけ、地域の方たちと挨拶を交わしたり、話したりしている。地域の方たちに納涼祭に来て頂き、踊りを教えて頂いたり、一緒に金魚すくいなどをして交流している。	「平和新聞」を作成し地域の回覧板に入れてもらえないか打診したり、地域の行事に参加させてもらえるように区長等に働きかけている。自治会に加入している。	グループホームは居宅介護サービスに位置づけられ、利用者全員がその地域の住民であることへの理解を運営推進会議を通し働きかけていってほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護に関する相談は随時行っている。散歩に出た際、高齢の方にそれとなくお話を伺い、「何時でもお立ち寄り下さい」と声をかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、最初は、私もグループホームの一日の流れを把握して頂いたり、広く地域の方たちと交流をはかれるような議題提案をさせて頂いている。会議で出席頂いた方たちのご意見・アドバイスなども、次回までに改善したり、変更したりと取り入れさせて頂いている。	2ヶ月に1度開催されている。家族・区長・民生委員・市役所・長寿会長が参加している。避難訓練報告の消防士の参加がある。毎回家族から意見が出て、改善できるところは改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議などの際、必ず市職員の方にも出席頂き、アドバイスやご意見を伺っている。積極的にお話させて頂き、これまでに何度か改善・取り入れなどをさせて頂いている。	運営推進会議で顔を合わせているため、質問しやすくなった。介護保険申請代行や空き情報等を報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場研修で身体拘束についての学習会を行い、具体的にどのような行為が拘束の対象となるのかを職員全員で学習している。	ホーム内には「身体拘束ゼロを目指します」と掲げている。玄関・居室の施錠はしていない。身体拘束についての法人内研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する職場研修を行っている。また、虐待発見時の通報義務についても、福祉に携わる者として常に心掛けるなど、確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度と日常生活自立支援事業について、職場研修している。資料作成し、全員に配布している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前より、十分な説明をさせて頂いている。入居後も、随時話し合い等を行い、解約時も段階を経て行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会などで、ご家族様などからご意見・ご感想を伺い、記録し、改善・変更出来る点はすぐに反映している。また、時間のかかる事案に対しても継続し検討している。	来訪時に意見を言ってもらえるようにしている。「下着の数が少なくなった」「セーターの上にセーターを着せないで」等の意見が出た。管理者は家族からの言葉を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の職場会議や日々の業務の中で、一人ひとりの職員から、意見や提案を聞く機会を設けるように心掛けている。改善すべき点は改善し、相互理解できるように努力している。	職員から意見が出ている。意見により改善案による変更や休日の希望を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員が提案や意見を言いやすい雰囲気である。毎月1回の職場会議にも参加してコミュニケーションをはかっている。環境改善の提案も聞き入れて改善整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部会議の出席や研修会等の参加推進を働きかけている。新入職員に対しても、マンツーマンのOJT体制で丁寧に指導を心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会へ加入し、管理者や職員が、同業者と交流する場へ参加が出来るよう働きかけている。近隣事業所同士でも交流が持てるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談を頂いた後、必ず、ご本人との面接を実施している。その際なるべくご自宅へうかがい、ご本人の生活環境なども見せて頂き、理解を深められるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労やサービス利用状況等、経緯について、ゆっくりとお話を伺っている。お話を伺いながら、関係を築いていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人やご家族の思いや状況などを確認し、何がこの方にとって必要であるかを見極め、可能な限り柔軟な対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、長く生きてこられた人生の大先輩であるという事を常に心に留め、昔の風習や、お料理の味付け、掃除の仕方など教えて頂きながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にいつでも来て頂ける体制にしてあり、その際にはご家族の思いに寄り添い、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、ご家族と同じような思いで支援している事を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	門戸を広げ、ご家族やご友人がいつでも来て頂けるように、開放的な雰囲気、友好的な雰囲気づくりをしている。	在宅と老健からの入所となっている。外泊の実施支援や入院中の友人の見舞い等の馴染みの継続支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席を配慮したり、生活場面で共通の話題のお話をしたり、なかなかお話の出来ない方に寄り添ったりして、穏やかに生活できるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方にも、折りにふれ、近況伺いの電話をさせて頂いたりし、継続的にお付き合いが出来るよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声掛けをしたりして、意向の把握に努めている。その他ご家族からも情報を頂いている。	入居時に本人等から面接や入居後の兄弟姉妹等の面会者からも情報を集めている。本人からの入居後の希望や好きな活動等を話題の中から引き出そうとしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人から伺ったり、ご家族・ご友人などの面会の際にも、少しずつ伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活スペースに合わせ、その中で出来る事に注目し、その方の全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がより良く生活していただけるよう、ご本人・ご家族のご要望、医師等の意見を含め、普段の生活記録や様子など総合的に反映し、介護計画を作成している。	月に1度のモニタリングと入居時と更新時に介護計画の見直しを行っている。担当者会議には本人や家族の参加もある。	月に1度のモニタリングを参考に3ヶ月ごとの介護計画の見直しをお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録、連絡ノートなどで、個人個人の状態変化等記録し、情報を共有している。会議等で常に話し合い、介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族・ご本人の状況に合わせた、柔軟で多様化したサービスに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や近隣施設への働きかけや、ボランティアの方達の協力も得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの受診記録を作成し、全職員が情報を共有している。また、かかりつけ医とのコミュニケーションもはかり、関係を築いている。	家族の希望によるかかりつけ医となっている。かかりつけ医の月に1~2回の症状による往診がある。訪問歯科支援もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護資格を有する職員を中心に、毎日の体調把握に努め、記録し、小さな変化にも対応できる体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ケアマネ、相談員などが情報提供を行い、ご家族を含め、三者一体となり、入院ダメージ軽減に努めている。また、入院中も、医師と話をする機会を持ち、退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期にむけた方針の相談を行い、「意思確認書」を作成して頂いている。また、担当医師とも出来る限り相談し、ご本人の望まれる方針と事業所でできる事の確認を行っている。	かかりつけ医の協力もあり家族には「意思確認書」で確認を行っている。家族の意向に対しては職員の出来る範囲で行うことが共有されている。医療連携加算は取っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し、研修を行っている。救急車要請の具体的レベルを掲示し、緊急時落ち着いて対応できるように日常的に意識している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時マニュアル、災害時マニュアルを作成し、常に非常時をシミュレーションしながら、日常業務を行っている。また、近隣施設との連携も依頼し、関係を築いている。	訓練は1度実施されている。消防署立会いの下、運営推進会議時に昼想定で行った。利用者・家族・運営推進会議参加者が参加した。スプリンクラーは設置済みである。	年に2回は消防署立会いの下と自主訓練を昼夜想定で行ってほしい。地域住民が協力してくれる体制作りをお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々にあった対応を心掛けている。尊敬の気持ちを持ち、言葉かけ、呼び方など配慮している。	呼称では「～ちゃん」は使わないことや尊敬の気持ちを持って接するようにしている。トイレ誘導の声掛けの工夫や利用者同士の会話にも気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりにあった声かけを心掛けている。返事の遅い方、出来ない方にも、表情を読み取るなど、ご本人の自己決定をゆっくり待つように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大体の一日の流れはあるが、その方のペースが最優先で、その方の気持ちに沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度位のペースで散髪をしたり、先頃行った納涼祭では、ご本人の浴衣や甚平を持ってきて頂き、着用して頂いた。入浴後、女性には長年愛用の乳液などをつけて頂いている。又職員が手作りのアクセサリーなど身に付けて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お好みのものをリクエストして頂いたり、メニューに反映している。テーブル拭き、食器片付け等出来る方には手伝って頂いている。又、利用者の方と手巻き寿司などを一緒に作ったりしている。	好きなもの・食べたいものは本人・家族や職員から情報を集め献立に反映させている。手巻き寿司・いなり寿司・喫茶の日に設けて一緒に作っている。毎日味見をしてもらい、台ふき、片づけの役割がある。職員は同じ物を一緒に食べていない。	メニューを考え一緒に作っているのので、作ったものを一緒に食べる楽しみを味わってほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量など毎日記録している。特に夏場は、夜間の水分補給など配慮している。また、入浴後にはポカリスエットを必ず飲んで頂き、脱水予防している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後必ず口腔ケアを実施している。ご自分で磨いて頂いた後、職員も確認するように心掛けている。定期的な歯科医の往診でご指導頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄や飲水記録を付け、パターンを把握するよう心掛けている。把握により、声かけのタイミングをつかみ、トイレで排泄して頂けるよう支援している。	放尿癖のある人もいたが今では落ち着き、ほぼトイレで出来るようになった。排泄パターンを把握して個別のパターン毎の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のメニューに配慮している。ヨーグルトやバナナ、食物繊維を多く摂るようにしている。毎日1時間程度、軽く身体を動かしたり、散歩したり、運動し、自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	季節に合わせて、菖蒲湯やゆず湯など工夫している。入所当初、入浴をして頂けなかった方にも声かけなど工夫し、入浴して頂けるようになっている。何時でも入浴して頂けるよう、職員ローテーション変更も現在考慮中である。	毎日お湯をはっている。毎日入浴している人がいる。最低でも週に2回の支援と失禁時のシャワー浴等がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転している方には、日中の活動量を増やしたり、入睡前、ホットミルクを飲んで頂くなど工夫している。ご本人に合わせて休息して頂けるよう常に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご自分で口に入れられる方には手渡し、服用確認している。その方に合った服用方法を心掛けている。また、服薬情報を職員全員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方に合った楽しみを見つけて頂き、好きなこと、得意なことの把握をし、張り合いや喜びのある時間をすごして頂けるよう心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物など、戸外へ出かけられるよう支援している。「コーヒーショップでコーヒーが飲みたい」「レストランで食事がしたい」などの希望を現在までに実行している。また、ご家族にも外出希望をお伝えし、ご協力して頂いている。	スーパーへの日用品の買物や散歩・ベランダでの外気浴で日常的な支援を行っている。花見・外食・市役所等に出かけ家族へも参加を呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員と一緒に買物に行き、職員が見守りながらご自分で支払いをして頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと希望される方には、かけてお話しして頂いています。手紙やハガキもやり取り出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール外のデッキに洗濯物を干し、生活観を感じて頂いている。キッチンも対面式で料理の匂いなどを感じ、職員の案内前にダイニングテーブルに皆さん揃っておられる事などもある。食事時には、テレビを消し、BGMをかけている。	9居室が横並びで夜勤者の目が届く造りとなっている。テーブルは対面で一列となっているが状況により工夫している。金魚が飼われ利用者の作品・食事のメニューも飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内にスペースを分けたり、イスやソファを置いて、思い思いに座って頂いている。食事テーブルも、仲の良い方同士を隣にするなど配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーや色紙を壁に貼ったり、入居時の説明でなじみのある物を持ってきて頂けるようお願いしている。タンスの整理なども一緒に行ったりしている。	仏壇や整理ダンス・家族の写真・化粧品・日ごろの写真が飾られている。各居室は臭いもなく清潔感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	外出時、座って靴を履けるように玄関にイスを置いたり、ご自分の部屋が分かるように、大きな文字の名前と、ご本人の写真を掲示している。以来、居室を間違えなくなり、ご自分で靴を履く事が出来たり、ご自分で居室とホールを往復できている。		